

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-175615

(43)Date of publication of application : 02.07.1999

(51)Int.Cl.

G06F 17/60
G06F 19/00

(21)Application number : 09-338309

(71)Applicant : FUJITSU LTD

(22)Date of filing : 09.12.1997

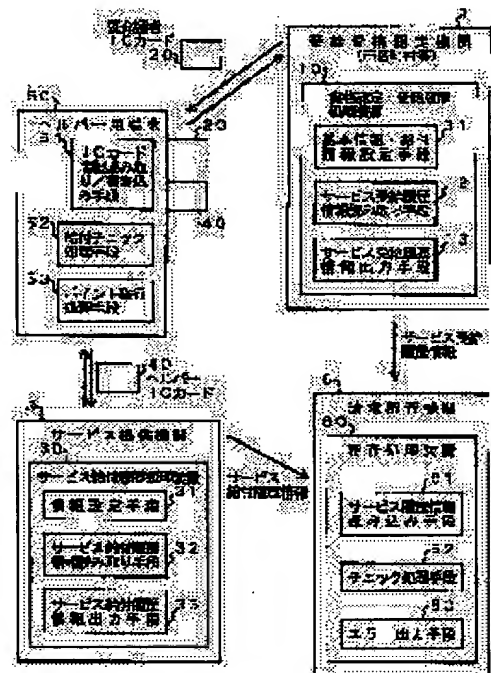
(72)Inventor : NAKAMURA HITOSHI
IEZUKA AKIZO
OTSUKI CHIHARU

(54) PROCESSING METHOD AND SYSTEM FOR INSPECTING CONTENTS OF APPLICATION FOR CARE INSURANCE SYSTEM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To attain a system for inspecting consistency between reception history data stored in an IC card and provision history data provided at the time of applying for insurance money in a care insurance system applied contents inspection system capable of preventing the generation of an illegal application for a care insurance money in a care insurance system.

SOLUTION: At the time of providing service, a helper's terminal 50 inspects (52) whether practical provision time is included in a prescribed proper range or not, and when the time is proper, writes service reception history information in a care-needed person IC card 20 and writes service provision history information in a helper IC card 40. The service reception history information is read out (12) by a reception history processor 10 and transferred to an inspection processor 60 and the service provision history information is read out (32) by a service provision history processor 30 and transferred to the processor 60. The processor 60 checks (52) whether service provision history information data coincide with service reception history information data or not and outputs (63) non-coincidence data.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2000 Japanese Patent Office

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-175615

(43)公開日 平成11年(1999) 7月2日

(51)Int.Cl.⁶

G 0 6 F 17/60
19/00

識別記号

F I

G 0 6 F 15/21

15/42

3 6 0

3 4 0 Z

H

審査請求 未請求 請求項の数6 O L (全 16 頁)

(21)出願番号 特願平9-338309

(22)出願日 平成9年(1997)12月9日

(71)出願人 000005223

富士通株式会社

神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番
1号

(72)発明者 中村 均

神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番
1号 富士通株式会社内

(72)発明者 家塚 章蔵

神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番
1号 富士通株式会社内

(72)発明者 大月 千春

神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番
1号 富士通株式会社内

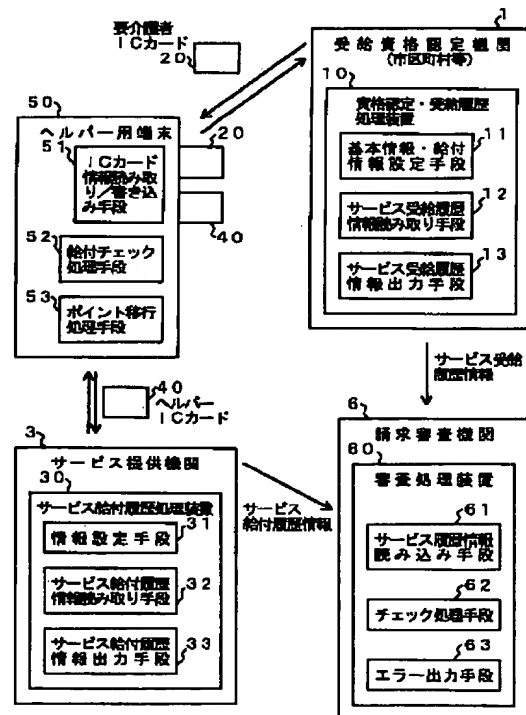
(74)代理人 弁理士 小笠原 吉義 (外2名)

(54)【発明の名称】 介護保険制度用請求内容検査処理方法および介護保険制度用請求内容検査システム

(57)【要約】

【課題】 介護保険制度において介護保険金の請求の不正請求を防止する介護保険制度用請求内容検査システムに関し、I Cカードに記憶された受給履歴データと保険金請求時に提出される給付履歴データとの整合性を検査するシステムを実現する。

【解決手段】 サービスを提供したときに、ヘルパー用端末50は、実際の給付時間が所定の適正範囲内かどうかを検査し(52)、適正なら要介護者ICカード20にサービス受給履歴情報を、ヘルパーICカード40にサービス給付履歴情報を書き込む。サービス受給履歴情報は、資格認定・受給履歴処理装置10で読み取られ(12)、審査処理装置60に渡され、サービス給付履歴情報は、サービス給付履歴処理装置30で読み取られ(32)、審査処理装置60に渡される。審査処理装置60は、サービス給付/受給履歴情報のデータが一致するか否かをチェックし(62)、不一致データを出力する(63)。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 介護保険制度において介護保険金の請求内容を検査する介護保険制度用請求内容検査処理方法であって、介護サービス提供時に、要介護者にあらかじめ配布された要介護者ＩＣカードにサービス受給履歴情報を書き込むとともに、介護サービス者用記憶媒体にサービス給付履歴情報を書き込む過程と、介護保険金の請求審査時に、介護サービスの提供機関が前記介護サービス者用記憶媒体から読み取ってとりまとめたサービス給付履歴情報と、受給資格認定機関が前記要介護者ＩＣカードから読み取ってとりまとめたサービス受給履歴情報とを、請求審査機関の審査処理装置において照合し、介護保険金請求の可否を検査する過程とを有することを特徴とする介護保険制度用請求内容検査処理方法。

【請求項2】 受給資格認定機関に設置される資格認定・受給履歴処理装置と、サービス提供機関に設置されるサービス給付履歴処理装置と、請求審査機関に設置される審査処理装置と、実際に介護サービスが提供されるところに設置または搬入される介護サービス者用端末とを備え、介護保険制度において介護保険金の請求内容を検査するシステムにおける介護保険制度用請求内容検査処理方法であって、前記資格認定・受給履歴処理装置は、要介護者に対して配布する要介護者ＩＣカードに当該要介護者を特定するための基本情報およびサービスを受給するためのポイント情報を書き込み、前記介護サービス者用端末は、介護サービス提供時に、前記要介護者ＩＣカードが記憶するポイント情報をチェックし、サービス内容に応じて前記要介護者ＩＣカードが記憶するポイント情報を更新するとともにサービス受給履歴情報を書き込み、かつ介護サービス者用記憶媒体にサービス給付履歴情報を書き込み、前記サービス給付履歴処理装置は、前記介護サービス者用記憶媒体から読み取ったサービス給付履歴情報を所定の期間ごとにとりまとめ、前記資格認定・受給履歴処理装置は、前記要介護者ＩＣカードから読み取ったサービス受給履歴情報を所定の期間ごとにとりまとめ、前記審査処理装置は、前記サービス給付履歴処理装置がとりまとめたサービス給付履歴情報と、前記資格認定・受給履歴処理装置がとりまとめたサービス受給履歴情報とを照合することにより、介護保険金請求の可否を検査することを特徴とする介護保険制度用請求内容検査処理方法。

【請求項3】 介護保険制度において介護保険金の請求内容を検査する介護保険制度用請求内容検査処理システムであって、受給資格認定機関に設置され、要介護者に対して配布する要介護者ＩＣカードに当該要介護者を特定するための基本情報およびサービスを受給するためのポイント情報を書き込み、また要介護者ＩＣカードから読み取ったサービス受給履歴情報を所定の期間ごとにとりまとめる資格認定・受給履歴処理装置と、実際に介護サービスが提供されるところに設置または搬入され、介

護サービス提供時に、前記要介護者ＩＣカードが記憶するポイント情報をチェックし、サービス内容に応じて前記要介護者ＩＣカードが記憶するポイント情報を更新するとともにサービス受給履歴情報を書き込み、かつ介護サービス者用記憶媒体にサービス給付履歴情報を書き込む介護サービス者用端末と、サービス提供機関に設置され、前記介護サービス者用記憶媒体から読み取ったサービス給付履歴情報を所定の期間ごとにとりまとめるサービス給付履歴処理装置と、請求審査機関に設置され、前記サービス給付履歴処理装置がとりまとめたサービス給付履歴情報と、前記資格認定・受給履歴処理装置がとりまとめたサービス受給履歴情報とを照合することにより、介護保険金請求の可否を検査する審査処理装置とを有することを特徴とする介護保険制度用請求内容検査システム。

【請求項4】 請求項3記載の介護保険制度用請求内容検査システムにおいて、前記介護サービス者用記憶媒体は、介護サービス者ごとに割り当てられるＩＣカードであることを特徴とする介護保険制度用請求内容検査システム。

【請求項5】 介護保険制度において介護保険金の請求内容を検査するシステムであって、受給資格認定機関に設置される資格認定・受給履歴処理装置と、要介護者ごとに配布される要介護者ＩＣカードと、サービス提供機関に設置されるサービス給付履歴処理装置と、請求審査機関に設置される審査処理装置と、実際に介護サービスが提供されるところに設置または搬入される介護サービス者用端末とを備え、前記資格認定・受給履歴処理装置は、前記要介護者ＩＣカードに当該要介護者を特定するための基本情報およびサービスを受給するためのポイントの給付上限ポイントおよび現在ポイントを設定・更新する処理手段と、前記要介護者ＩＣカードに記憶された情報を読み取る処理手段と、前記要介護者ＩＣカードから得た情報のうちサービス受給履歴に関する情報を出力する処理手段とを持ち、前記要介護者ＩＣカードは、少なくとも前記資格認定・受給履歴処理装置により設定される基本情報、給付上限ポイント、現在ポイント、および前記介護サービス者用端末により書き込まれる当該要介護者のサービス受給履歴に関する情報を記憶する記憶域を持ち、前記介護サービス者用端末は、少なくとも提供するサービスごとの基準となる所要時間、所要ポイント、前記サービス給付履歴処理装置により設定されるサービス情報と要介護者に対して提供したサービス給付履歴に関する情報を記憶する記憶媒体への読み取り／書き込み手段と、前記記憶媒体に記憶されたサービス情報にもとづき、サービスが実施された実際の時間が適正範囲内かどうかを判断する処理手段と、前記記憶媒体に記憶されたサービス情報にもとづき、サービスに対応するポイントを要介護者ＩＣカードの現在ポイントから減算する処理手段とを持ち、前記サービス給付履歴処理装置

は、前記介護サービス者用端末が読み書きする記憶媒体にサービスごとに定義されるサービス情報を設定する処理手段と、前記介護サービス者用端末が読み書きする記憶媒体からサービス給付履歴に関する情報を読み取る処理手段と、読み取ったサービス給付履歴に関する情報を出力する処理手段とを持ち、前記審査処理装置は、前記資格認定・受給履歴処理装置から出力されたサービス受給履歴情報および前記サービス給付履歴処理装置から出力されたサービス給付履歴情報を読み込む処理手段と、読み込まれたサービス受給履歴情報およびサービス給付履歴情報を突き合わせ、データが合致しているかどうかを調べる処理手段と、データが合致していない場合に、合致しないデータをエラーとして出力する処理手段とを持つことを特徴とする介護保険制度用請求内容検査システム。

【請求項6】 請求項5に記載する介護保険制度用請求内容検査システムにおいて、前記サービス受給履歴に関する情報は、少なくとも、給付を受けたサービス内容、給付業者名、開始時刻、終了時刻、前記減算したポイントの情報を含み、前記サービス給付履歴に関する情報は、少なくとも、サービスを給付した被保険者番号、サービス内容、開始時刻、終了時刻、前記減算したポイントの情報を含むことを特徴とする介護保険制度用請求内容検査システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、介護保険制度において、サービス給付に対する保険金請求内容を検査するシステムに関する。

【0002】本格的に高齢化社会が到来すると、従来のような家庭を中心とした介護だけでは、高齢者介護を支えきれなくなることから、介護保険制度が創設され、コンピュータの応用技術分野として、介護保険制度を問題なく運用できるようにするための計算機システムが必要とされている。

【0003】

【従来の技術】まず、介護保険制度の概要を説明する。介護保険制度は、従来、地方公共団体等が福祉措置として行っている介護サービス等と老人保険の一環として行っている介護サービス等とを、介護保険として一本化して提供しようとするものである。

【0004】介護保険制度の保険者は市区町村であり、被保険者は65歳以上の高齢者（1号被保険者）と45歳以上65歳未満の壮年者（2号被保険者）である。被保険者は保険料を支払い、高齢等により介護が必要な状態になった場合には、管轄の市区町村に要介護者資格取得の申請を行う。市区町村は、要介護者資格取得の申請の審査を行い、受給資格を認定し、所定の要介護状態のレベルに応じて上限が定められた給付ポイントを付与した介護保険証等を交付する。

【0005】認定を受けた要介護者は、民間等で運営される各種の介護サービス提供機関に対し、介護保険証等を提示して、例えばヘルパー派遣等の介護サービスの給付を依頼する。介護サービス提供機関は、依頼に基づいてサービスを提供する。サービス提供の際に、介護の内容ごとに定まるポイントに基づいて、受給者である要介護者から費用の1割を徴収し、残りの9割については、保険請求の請求審査機関（国民健康保険団体連合会）に対して介護保険金の請求点数の明細書（レセプト）を添付して請求をする。

【0006】国民健康保険団体連合会は、レセプトの内容を審査し適正であれば、これを該当する市区町村等（保険者）に配布し保険金の請求を行う。市区町村等は、国民健康保険団体連合会を介して、保険金を介護サービス提供機関に支払う。

【0007】介護保険制度においては、市区町村等（保険者）、要介護者（被保険者）およびサービス提供機関の間で、複雑なポイント計算を伴う種々の形式の書類をやりとりしなければならないが、現在の規模のままで対応しなければならない市区町村等の多くは、事務処理の負担が非常に大きい。

【0008】この介護保険に関する事務処理の負担を軽減するため、従来の健康保険証のような紙による受給資格証の代わりに、介護保険証をICカード化して要介護認定者に配布して、事務処理の一部を代行するシステムが考えられている。

【0009】受給資格の認定をするときに、給付ポイントを記憶したICカードを配布する。介護サービス提供機関が介護サービスを提供したときに、そのICカードに記憶された給付ポイントから所定のポイント減算する。介護報酬料を請求する時に、そのICカードのポイントデータをそのまま使用できるようにしようとするものである。

【0010】

【発明が解決しようとする課題】これに対し、ICカードを用いたときには、以下のような問題がある。現在の介護保険制度では、介護報酬料の請求等の申請は書面で提出することとなっている。すなわち、ICカードを配付して給付ポイントの上限管理を行う場合において、介護者は、介護サービスを受けるとき、サービス提供機関に対し介護保険証をみせる。病院は介護報酬申請を書面で行っているため、ICカードの給付ポイント上限を超えたかどうかは、その時点で提出される介護保険証では確認できない。また、ICカードのポイント情報は介護保険証に反映されず、サービス提供機関がその情報を知るまでにある程度の時間差が生ずる。

【0011】この場合に、サービス提供機関が要介護者のサービス提供時に直接ICカードを使用するようにすれば、介護サービス提供時に、給付ポイント上限を超えているかどうかを判断することができる。

【0012】しかし、要介護者にICカードを配るだけであると、例えば、車椅子等の介護用具の貸し出しなどのサービス提供の場合には、要介護者の代わりに家族の者等第三者がサービスの提供を受ける場合もあり、介護サービス受給者が資格者当人であるかどうかを確認することが困難な場合もある。

【0013】また、サービス提供機関が、実際に行ったサービスの所定ポイントより多いポイントをICカードから引き落として不正請求するような場合も生ずるおそれがある。

【0014】したがって、実際に提供されたサービスのポイントが、保険金請求時のデータに反映されていることが必要であり、そのためには、保険金請求時のデータのチェックを行う必要がある。

【0015】本発明は、介護保険制度における介護保険金請求の不正請求を防止するため、ICカードに記憶されたデータと介護保険金請求時に提出されるデータとの整合性を検査するシステムを実現することを目的とする。

【0016】

【課題を解決するための手段】図1は、本発明の構成例を示すブロック図である。受給資格認定機関（市区町村等）1は、保険者であって、要介護者の申請により介護保険の受給資格を認定して要介護者ICカード20を交付し、サービス受給状況を確認し、受給状況を請求審査機関6に通知する機関である。

【0017】サービス提供機関3は、要介護者の依頼により各種の介護サービスを提供し、所定のポイントに基づいて保険金を請求する機関である。請求審査機関6は、サービス提供機関3からの介護保険金請求があった場合に、受給資格認定機関1からのサービス受給履歴情報に基づいて、この請求内容を審査し、受給資格認定機関1からの保険金の支払を仲介する機関である。

【0018】資格認定・受給履歴処理装置10は、受給資格認定機関1に設置され、基本情報・給付情報設定手段11、サービス受給履歴情報読み取り手段12、サービス受給履歴情報出力手段13を持つ。

【0019】基本情報・給付情報設定手段11は、要介護者ICカード20に被保険者番号、住所、氏名、生年月日等の基本情報および要介護度、給付上限ポイント等の給付情報を設定・更新する手段である。

【0020】サービス受給履歴情報読み取り手段12は、要介護者ICカード20に記憶されたサービス受給履歴情報を読み取る手段である。サービス受給履歴情報は、その要介護者が受給したサービス内容、業者名、年月日、サービスの開始時刻、終了時刻、ポイント等である。

【0021】サービス受給履歴情報出力手段13は、所定期間ごとに読み取ったサービス受給履歴情報をとりまとめて、請求審査機関6へ送付するための記憶媒体や通

信媒体等に出力する手段である。

【0022】ヘルパー用端末50は、介護サービス者が持つ携帯型コンピュータ等によって構成され、実際にサービスが給付される現場に設置または搬入される。ヘルパー用端末50は、ICカード情報読み取り/書き込み手段51、給付チェック処理手段52、ポイント移行処理手段53を持つ。

【0023】ICカード情報読み取り/書き込み手段51は、サービスが実施される際に挿入される要介護者ICカード20とヘルパーICカード40に記憶されている情報を読み取り、または情報を書き込む手段である。

【0024】給付チェック処理手段52は、サービスの内容ごとに定められた基本時間にもとづいて、サービスが実施された実際の時間が適正範囲内かどうかを判断する手段である。

【0025】ポイント移行処理手段53は、介護サービスの提供時に、サービスの内容ごとに定められたポイントを要介護者ICカード20から減算し、ヘルパーICカード40が記憶するポイントに加算する手段である。

【0026】また、サービス給付履歴処理装置30は、サービス提供機関3に設置され、情報設定手段31、サービス給付履歴情報読み取り手段32、サービス給付履歴情報出力手段33を持つ。

【0027】情報設定手段31は、ヘルパーICカード40に記憶するサービス情報テーブル等の種々の情報を設定する手段である。サービス給付履歴情報読み取り手段32は、ヘルパーICカード40に記憶されたサービス給付履歴情報を読み取る手段である。サービス給付履歴情報は、例えば被保険者番号、氏名、サービス内容、年月日、サービスの開始時刻、終了時刻、ポイント等である。

【0028】サービス給付履歴情報出力手段33は、保険金請求の際に請求審査機関6へ送るために、サービス給付履歴情報読み取り手段32で読み取ったサービス給付履歴情報をとりまとめて出力する手段である。

【0029】審査処理装置60は請求審査機関6に設置され、サービス履歴情報読み込み手段61、チェック処理手段62、エラー出力手段63を持つ。サービス履歴情報読み込み手段61は、資格認定・受給履歴処理装置10から出力されたサービス受給履歴情報およびサービス給付履歴処理装置30から出力されたサービス給付履歴情報を読み込む手段である。

【0030】チェック処理手段62は、サービス履歴情報読み込み手段61から読み込まれたサービス受給履歴情報およびサービス給付履歴情報を突き合わせ、データが合致しているかどうかを調べる手段である。

【0031】エラー出力手段63は、チェック処理手段62による突き合わせ処理の結果、合致しないデータをエラーとして出力する手段である。なお、ヘルパー用端末50がサービス給付履歴情報を格納する記憶媒体とし

て、ヘルパーICカード40を用いているが、必ずしもICカードでなくてもよく、例えばヘルパー用端末50が内蔵するハードディスクまたはフロッピディスク等を用いることもできる。しかし、ハードディスク等の記憶媒体よりもICカードを用いたほうが、ヘルパー個人が携帯、管理する上で利便性が非常によく、また、サービス給付履歴処理装置30にサービス給付履歴情報を読み取らせる場合にも便利である。

【0032】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の一形態を説明する。図2は、本システムの処理動作の概要を示す図である。

【0033】(a) 被保険者である要介護者2は、要介護資格の受給申請を受給資格認定機関1に対して行う。

(b) 受給資格認定機関1は、要介護者2の申請にもとづき、給付資格認定を行い、要介護者ごとの要介護者ICカード20を配布する。なお同時に、受給資格認定機関1は、請求審査機関6に対して、要介護者2と給付したポイントの上限を通知する。

【0034】要介護者ICカード20には、基本情報、給付情報、サービス受給履歴情報が記憶されている。図3は、配布される要介護者ICカード20のデータ構成の例を示す図である。基本情報として、被保険者番号、住所、氏名、生年月日等、被保険者に関する情報が、給付情報として、所定の介護の必要度を示す要介護度、要介護度に応じて給付されるポイントの上限を示す給付上限ポイント、現在ポイントが記憶される。

【0035】なお、サービス受給履歴情報には、実際にサービスの提供を受けたときに、受給したサービス内容、サービスを提供した業者名、サービス提供の年月日、開始時刻および終了時刻、サービス提供に要したポイントが記録される。

【0036】(c) 要介護者2は、サービス提供機関3に、サービスの給付として、例えば入浴補助を依頼する。

(d) サービス提供機関3から派遣されたヘルパー4は、ヘルパーICカード40を携帯して、要介護者2に対し入浴補助のサービスを提供する。

【0037】(e) サービス提供の際に、ヘルパー用端末50に要介護者ICカード20およびヘルパーICカード40を挿入し、提供されたサービス内容、提供された開始時間と終了時間等のサービス受給／給付履歴情報を書き込み、続いて、提供されたサービスに対応するポイント数を要介護者ICカード20からヘルパーICカード40へ移行する。

【0038】同時に、サービス情報テーブルに、サービス内容ごとに提供に必要な標準的な時間（基本時間）を定めておき、実際にサービス提供にかかった時間が、実際のサービス内容からみて適切であるかどうかを、サービス情報テーブルを参照してチェックする。

【0039】図4は、サービス情報テーブルのデータ構成の例を示す図である。サービス情報テーブルは、ヘルパー用端末50またはヘルパーICカード40のいずれかに記憶され、サービス内容の種別ごとに、サービス提供に必要とされる標準的な時間を示す基本時間、基本時間の誤差として容認される時間を示す誤差、提供されたサービスに対応するポイント数を示す基準ポイントが定義される。

【0040】例えば、入浴補助の場合には、サービス提供に要する時間は1時間（1：00）、誤差は30分とされているから、30分から1時間30分までは、適正な提供時間と判断され、入浴補助の基準ポイントである5ポイントが、要介護者ICカード20から、ヘルパーICカード40へ移行される。

【0041】要介護者2がサービスを受けるごとに、(c)～(e)の処理が繰り返される。要介護者ICカード20にはサービス受給履歴情報がその都度記憶される。また、ヘルパーICカード40には、そのヘルパーが担当したサービス提供に関するサービス給付履歴情報が記憶される。

【0042】図5は、サービス給付履歴情報の例を示す図である。サービス給付履歴情報として、サービスを提供した被保険者番号、被保険者の氏名、サービス内容、年月日、開始時刻、終了時刻が記憶され、適正なサービス提供であれば、所定の基準ポイントが記憶される。

【0043】ここで、要介護者ICカード20に記憶されるサービス受給履歴情報のうち、サービス内容、年月日、開始時刻、終了時刻、ポイントは、ヘルパーICカード40に記憶されるサービス給付履歴情報のサービス内容、年月日、開始時刻、終了時刻、ポイントと同じである。

【0044】(f) 要介護者2は、所定期間ごとに受給状況を知り、受給資格認定機関1に要介護者ICカード20を提出する。これにより、要介護者ICカード20のサービス受給履歴情報を通知することになる。

【0045】(g) 受給資格認定機関1は、資格認定・受給履歴処理装置10により、要介護者ICカード20のサービス受給履歴情報を読み取る。

(h) 受給資格認定機関1は、読み取ったサービス受給履歴情報を請求審査機関6に通知する。

【0046】(i) サービス提供機関3は、ヘルパーICカード40の内容をサービス給付履歴処理装置30で読み取り、所定期間ごとにサービス給付履歴情報の内容を添付して、保険金支払請求を行う。

【0047】(j) 請求審査機関6は、受給資格認定機関1から通知されたサービス受給履歴情報と、サービス提供機関3から提出されたサービス給付履歴情報とを突き合わせてデータが合致するかどうかを調べて、不当・不正な請求があるかどうかをチェックする。

【0048】(k) データを突き合わせた結果、合致しな

いデータがあれば、その情報をエラーリストとして出力する。図6は、エラーリストの出力例を示す図である。

【0049】審査処理装置60は、エラーリストとして、例えばサービスを提供した年月日ごとに、データの内容が不一致であるものや、いずれか一方にだけデータが存在するものについて出力する。図6に示すのケースは、サービス受給履歴情報とサービス給付履歴情報のサービス内容、給付時間（開始時刻）が不一致である場合を示し、図6に示すのケースは、サービス受給履歴情報またはサービス給付履歴情報のいずれか一方にしかデータが存在しない場合の例を示している。

【0050】(1) データを突き合わせた結果、不一致なデータがなければサービス提供機関3に対して保険金を支払う。なお、図2を用いた説明では、ヘルパー用端末50としてノート型パソコン等の可搬型コンピュータを用い、ヘルパーごとにヘルパーICカード40を携帯するようにした場合について説明している。しかし、ヘルパー用端末50およびヘルパーICカード40を一体化し、記憶媒体を持ち不特定多数の要介護者2のデータを記録できるような携帯用小型端末を用いることも可能である。

【0051】さらに、ヘルパーICカード40を介して行われる、ヘルパー用端末50とサービス給付履歴処理装置30とのデータの受渡し、サービス給付履歴処理装置30と審査処理装置60と、資格認定・受給履歴処理装置10と審査処理装置60とのデータの受渡しは、オンライン等を用いて行うことも可能である。

【0052】図7および図8は、処理画面の例を示す図である。図7および図8を用いて、処理の流れをさらに詳しく説明する。ヘルパー用端末50には、事前にヘルパーICカード40が挿入されているものとする。

【0053】サービスの提供を開始する場合に、図7

(A)に示すように、ヘルパー用端末50の画面に、まず要介護者ICカードの挿入を促すウィンドウが表示されるので、要介護者ICカード20を挿入し、了解ボタンを選択する。

【0054】ヘルパー用端末50のICカード情報読み取り／書き込み手段51により、要介護者ICカード20から被保険者の氏名、住所、給付ポイントの上限ポイント、現在ポイント等の必要な情報を読み込み、図7の(B)に示すように画面に表示する。続いて、要介護者ICカード20に現在の時刻（例えば「15:00」）を開始時刻として書き込み、画面に表示する。

【0055】次に、サービス内容を選択するウィンドウが表示されるので、図7(C)に示すように、入浴補助、食事補助等のサービスの一覧から提供するサービスを選択する。「入浴補助」が選択されると、図8(A)に示すように、ヘルパー用端末50は、サービス情報テーブルをもとに、画面上のサービス内容の欄に「入浴補助」、基本時間の欄に「1:00」、サービスポイント

の欄に「5ポイント」を表示する。

【0056】以上の入力が入力された後、要介護者ICカード20を挿入したまま、ヘルパー4は、実際にサービスの提供を行う。サービスの提供が終了したときに、画面上の終了ボタンを選択すると、ヘルパー用端末50は、要介護者ICカード20に、現在の時刻（例えば「16:15」）を終了時刻として書き込み、画面に表示する。

【0057】次に、サービス提供状況のチェックを行う。具体的には、給付チェック処理手段52により、開始時刻と終了時刻からサービス提供に要した時間を算出し、その算出した時間をサービス情報テーブルと比較して、適正な実施時間であったかどうかを判断する。

【0058】例えば、基本時間が1時間、誤差が30分の場合に、サービス提供に要した時間が30分～1時間30分の範囲であれば、適正な時間であると判断する。したがって、実際のサービス提供に要した時間が2時間を超えているような場合には、適正時間の範囲を超えているので、他のサービスの提供も行っていないかどうかの警告メッセージを表示し、別のサービス内容の選択入力を促す。開始時刻が15:00、終了時刻が16:15であれば、サービス提供に要した時間は1時間15分であり、適正な時間の範囲内であると判断するので警告メッセージは出ない。

【0059】実際に行ったサービス提供が適正な時間内であると判断した場合には、ポイント移行処理手段53により、先に選択されたサービス内容のポイント数を、要介護者ICカード20の現在ポイントから減算し、同時にサービス給付履歴情報のポイント数を書き込む。また、図8(B)に示すように、画面上に今回のポイントおよび残りのポイントを示した確認ウィンドウを表示する。

【0060】ICカード情報読み取り／書き込み手段51により、要介護者ICカード20にサービス受給履歴情報のデータ（提供されたサービス内容、提供した業者名、提供した年月日、開始時刻、終了時刻、使用したポイント）を書き込む。

【0061】さらに、ヘルパー用端末50の記憶域に、要介護者ICカード20から読み取ったデータ（被保険者番号、被保険者氏名、選択されたサービス内容、提供年月日、開始時刻、終了時刻）を書き込む。

【0062】ここで、要介護者カード20に記憶されるサービス受給履歴情報と、ヘルパー用端末50のヘルパーICカード40に記憶されるサービス給付履歴情報とに同一のデータ（サービス内容、年月日、開始時刻、終了時刻、ポイント）が記憶されることになる。

【0063】要介護者2が所定の期間ごとに受給状況を通知するときに、受給資格認定機関1の資格認定・受給履歴処理装置10は、要介護者ICカード20のサービス受給履歴情報を読み込み、要介護者ICカード20の

給付上限ポイント、現在ポイントを更新する。

【0064】資格認定・支給履歴処理装置10は、所定の期間ごとに、サービス支給履歴情報を出力し、請求審査機関6に通知する。一方、サービス提供機関3のサービス給付履歴処理装置30は、ヘルパーICカード40からサービス給付履歴情報を読み取り、所定期間ごとに読み取ったサービス給付履歴情報を出力し、保険金支払い請求の書類とともに、請求審査機関6に提出する。

【0065】請求審査機関6の審査処理装置60は、サービス履歴情報読み込み手段61により、支給資格認定機関1からのサービス支給履歴情報と、サービス提供機関3からのサービス給付履歴情報とを読み込む。

【0066】チェック処理手段62により、年月日と被保険者名をもとにこれらの2つのデータを照合し、同一でないデータがあるかどうかをチェックする。例えば、開始時刻と終了時刻のチェック等を行うことにより、サービス提供機関3が、不正なサービス提供をしたか否かを検出することができる。

【0067】エラー出力手段63により、チェック処理手段62が検出したデータをエラーリストとして出力する。請求審査機関6は、エラーとして出力されたデータに関する請求について、不正があればサービス提供機関3に対して指導等を行い、エラーが出力されなければ請求どおりの支払を行う。

【0068】図9は、サービス提供時のヘルパー用端末の処理フローチャートである。ヘルパー用端末50は、要介護者ICカード20が挿入されると、基本情報、給付情報を読み込み(S1)、要介護者ICカード20に開始時刻として現在時刻を書き込む(S2)。次に、サービス内容選択のウインドウを表示し(S3)、サービス内容が選択されるまで待つ(S4)、選択されたら、サービス内容とその基本時間および誤差を取得する(S5)。

【0069】サービスが提供され、終了した時に、終了指示が入力されたかどうかを調べ(S6)、終了指示が入力されたならば、サービス提供時間のチェックおよび給付ポイント移行処理を行う(S7)。

【0070】要介護者ICカード20にデータ(サービス内容、業者名、年月日、開始時刻、終了時刻、ポイント等)を書き込み(S8)、ヘルパー用端末50のメモリまたはヘルパーICカード40にデータ(被保険番号、氏名、サービス内容、年月日、開始時刻、終了時刻、ポイント等)を書き込む(S9)。

【0071】図10は、図9に示す処理フローチャートにおけるS7のサービス提供状況のチェック処理および給付ポイントの移行処理の処理フローチャートである。ヘルパー用端末50は、終了時刻と開始時刻との差の時間Tを求め(S11)、時間Tが選択したサービスの適正な範囲内であるかどうかを調べる(S12)。時間Tが適正な範囲内であればS14へ進み、そうでなければ

ば、追加サービスの警告処理を行う(S13)。S14では、要介護者ICカード20の現在ポイントを見て、上限ポイントが不足している場合には、上限オーバーの警告処理を行う(S15)。

【0072】続いて、要介護者ICカード20から提供したサービスに対応するポイントを減算し(S16)、要介護者ICカード20にサービス給付履歴情報のデータ(サービス内容、業者名、年月日、終了時刻、ポイント等)を書き込む(S17)。さらに、ヘルパー用端末のメモリにサービス支給履歴情報のデータ(被保険者番号、氏名、サービス内容、年月日、開始時刻、終了時刻、ポイント等)を書き込み(S18)、終了する。

【0073】なお、この例では、サービス終了指示があったときに、基本時間の範囲内であるかどうかのチェックを行っているが、サービス中に実時間でチェックを行い、基本時間の範囲を過ぎるような場合にブザーを鳴動するなどのアラームを発するようにしてもよい。

【0074】図11は、請求審査処理の処理フローチャートである。審査処理装置60は、サービス支給履歴情報を取得し(S21)、サービス給付履歴情報を取得する(S22)。給付年月日および被保険者番号にもとづき両情報データを突き合わせ(S23)、サービス内容・開始時刻および終了時刻のチェックを行い(S24)、同一でないデータがあるかどうかをチェックする(S25)。同一でないデータがある場合には、エラーリストを出力する(S26)。

【0075】以上の実施の形態では、サービスの提供時および保険金の請求審査時の2つの場面において、サービス給付内容をチェックするようにしている。サービス提供終了後に、終了時刻を得て、サービスが実施に提供された時間と、サービスごとに定義された標準的な実施時間とを比べて、例えば、実施された時間が長すぎる場合には、他に減算すべきポイントがないかどうかをチェックし、短すぎる場合には、実際にサービスが行われたかどうかをチェックする。

【0076】さらに、書面による保険金請求の際に、サービス給付履歴情報を提出するようにし、このサービス給付履歴情報を、別ルートにより取得するサービス支給履歴情報と突き合わせて、内容に相違がないかどうかを調べる。

【0077】これにより、サービス提供機関が水増し請求等の不正・不当な請求をすることを防止することができる。

【0078】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、介護保険制度で要介護者ICカードを用いてサービスポイントを管理する場合において、不正・不当な保険金請求を自動チェックすることが可能になり、介護保険制度の円滑な運用が可能になる。

【図面の簡単な説明】

- 【図1】本発明の構成例を示すブロック図である。
 【図2】本発明の処理動作の概要を示す図である。
 【図3】要介護者ICカードのデータ構成の例を示す図である。
 【図4】サービス情報テーブルのデータ構成の例を示す図である。
 【図5】サービス給付履歴情報の例を示す図である。
 【図6】サービスエラーリストの出力例を示す図である。
 【図7】処理画面の例(1)を示す図である。
 【図8】処理画面の例(2)を示す図である。
 【図9】サービス提供時の処理フローチャートである。
 【図10】サービス提供状況のチェック処理および給付ポイントの移行処理の処理フローチャートである。
 【図11】請求審査処理の処理フローチャートである。
 【符号の説明】

- 1 受給資格認定機関(市区町村等)
 10 資格認定・受給履歴処理装置
 11 基本情報・給付情報設定手段
 12 サービス受給履歴情報読み取り手段

- 13 サービス受給履歴情報出力手段
 2 要介護者
 20 要介護者ICカード
 3 サービス提供機関
 30 サービス給付履歴処理装置
 31 情報設定手段
 32 サービス給付履歴情報読み取り手段
 33 サービス給付履歴情報出力手段
 4 ヘルパー
 40 ヘルパーICカード
 50 ヘルパー用端末
 51 ICカード情報読み取り/書き込み手段
 52 給付チェック処理手段
 53 ポイント移行処理手段
 6 請求審査機関
 60 審査処理装置
 61 サービス履歴情報読み込み手段
 62 チェック処理手段
 63 エラー出力手段

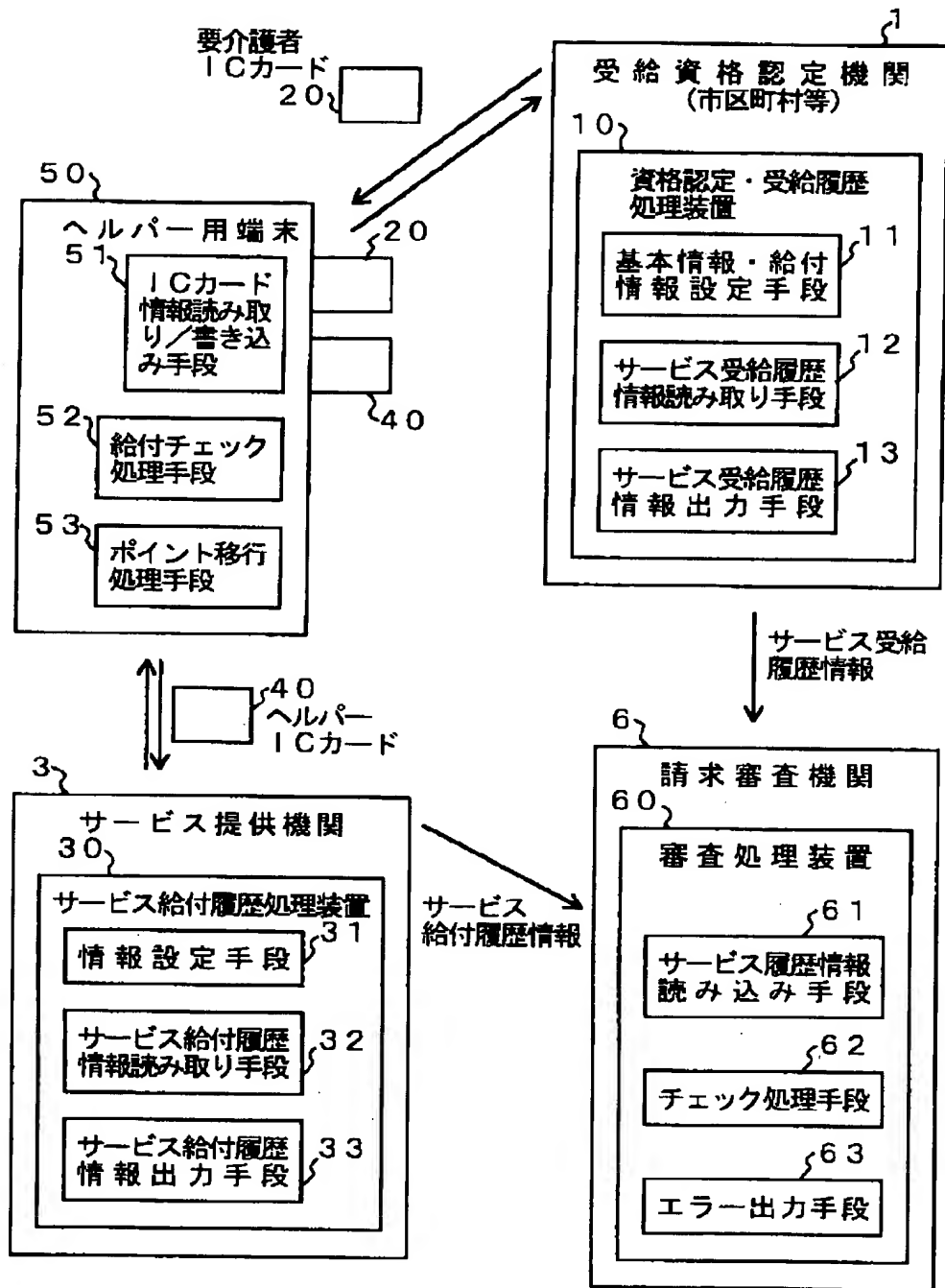
20

【図3】

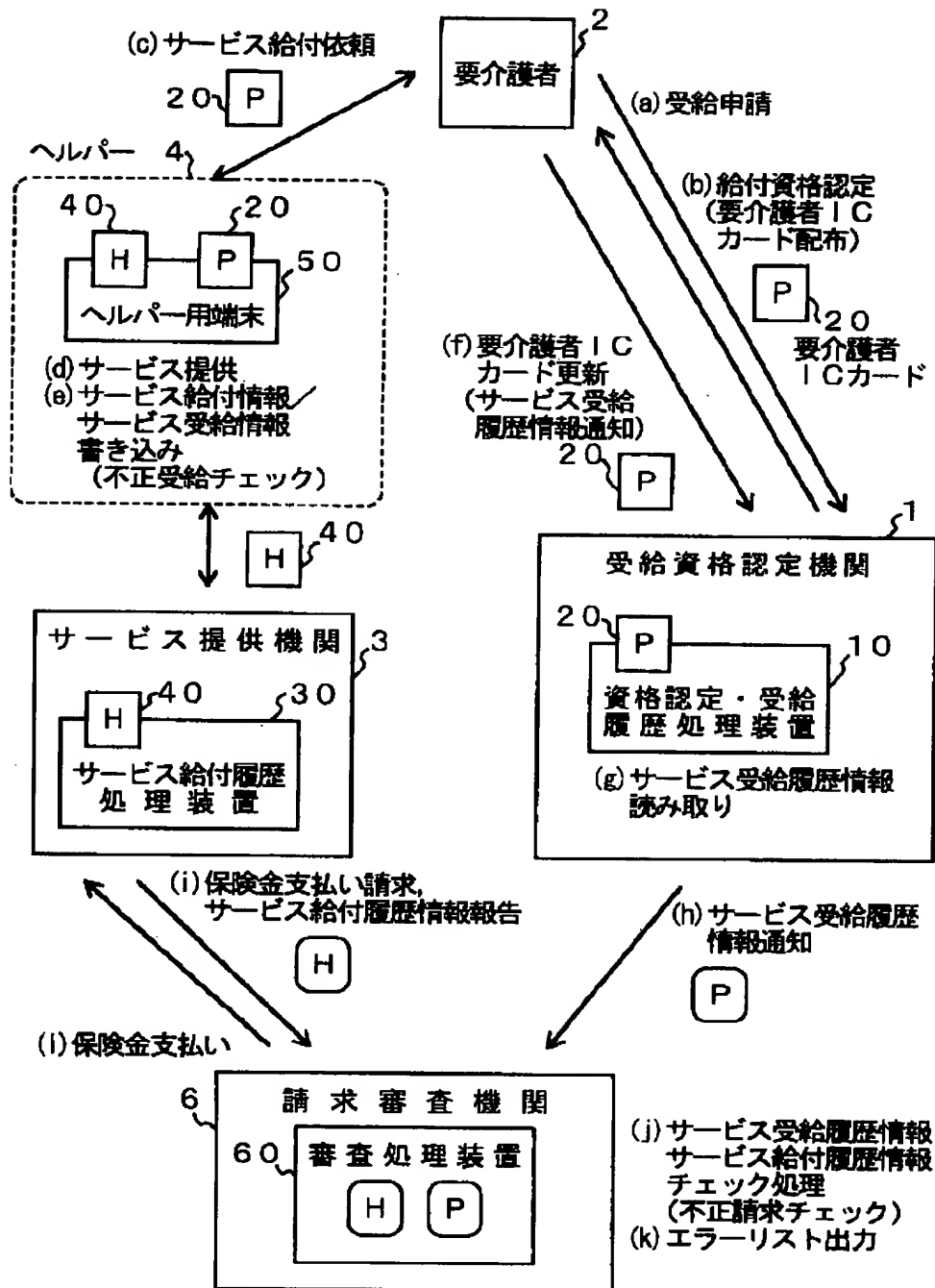
要介護者ICカードのデータ構成の例

基本情報	被保険者番号, 住所, 氏名, 生年月日等					
給付情報	要介護度, 給付上限ポイント, 現在ポイント等					
サービス受給履歴情報						
サービス内容	業者名	年月日	開始時刻	終了時刻	ポイント	...
入浴補助	△△医療	20000925	15:00	16:15	5	...
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

【図1】



【図2】



【図4】

サービス情報テーブルのデータ構成の例

サービス種別	基本時間	誤差	基準ポイント	...
入浴補助	1:00	30分	5	...
食事手伝い	1:00	30分	3	...
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

【図5】

サービス給付履歴情報の例

被保険者 番号	氏 名	サービス内容	年月日	開始 時刻	終了 時刻	ポイント
川0523	○山 ヨネ	入浴補助	20010925	15:00	16:15	5
横0223	△田 一郎	食事手伝い	20010925	17:00	18:00	3
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

【図6】

サービスエラーリストの出力例

サービスエラーリスト (2001年09月25日分)				
被保険者番号	氏 名	業者名	サービス内容	給付時間
川00512	○山 ヨネ	××医療	入浴補助	16:00～17:00
			食事手伝い	15:00～17:00
横10223	△本 二郎	××医療	入浴補助	16:00～17:00
			該当データなし	
⋮	⋮	⋮		

【図7】

処理画面の例(1)

(A)

氏名:	
住所:	要介護者ICカード を入れてください <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">了 解</div>
上限ポ	
サービ	
サービ	
開始時刻:	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">終 了</div>	

(B)

氏名:	〇山 ヨネ		
住所:	川崎市多摩区...		
上限ポイント:	30	現在ポイント:	30
サービス内容:			
サービスポイント:		基本時間:	
開始時刻:	15:00	終了時刻:	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">終 了</div>			

(C)

氏名:	〇山 ヨネ			
住所:	サービス内容			
上限ポ	入浴補助	1h	▲	ント: 30
サービ	食事手伝い	1h		
サービ	⋮	⋮	▼	:
サービ				
開始時刻:		終了時刻:		
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block;">終 了</div>				

【図8】

処理画面の例(2)

(A)

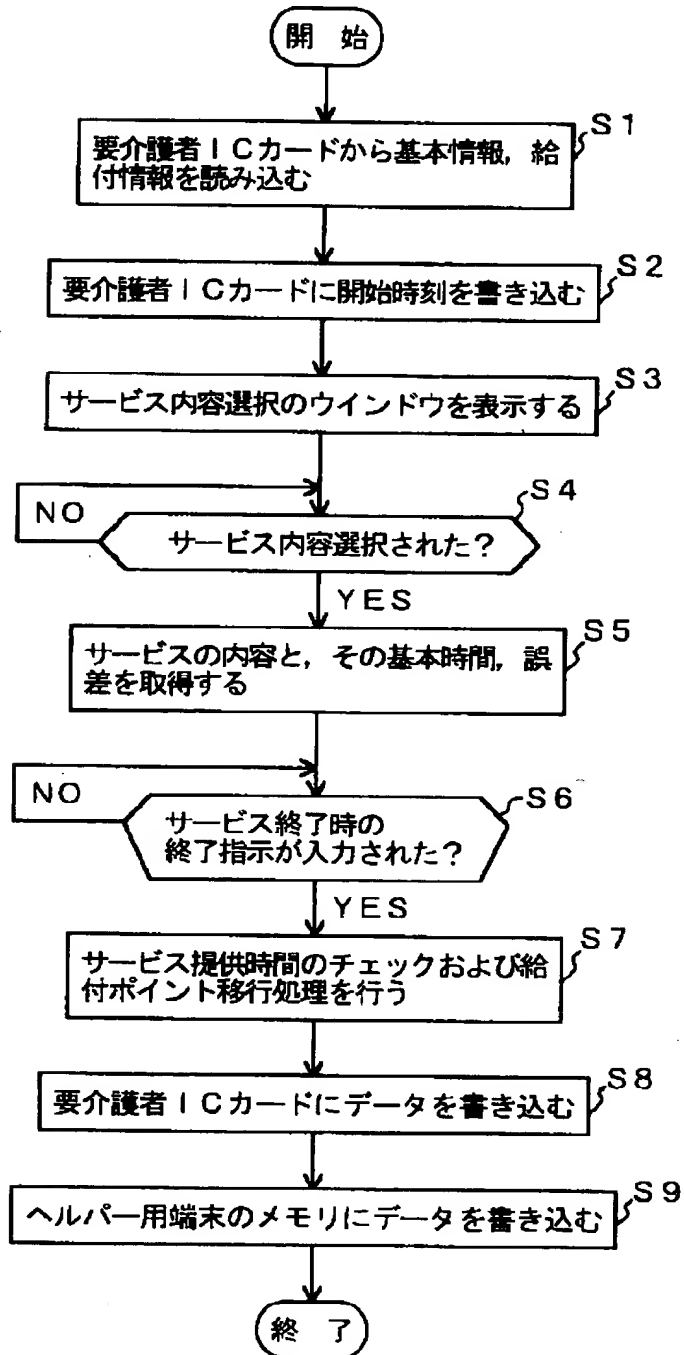
氏名：	○山 ヨネ		
住所：	川崎市多摩区・・・		
上限ポイント：	30	現在ポイント：	30
サービス内容：	入浴補助		
サービスポイント：	5	基本時間：	1：00
開始時刻：	15：00	終了時刻：	
<div>終了</div>			

(B)

氏名：	○山 ヨネ		
住所：			
上限ポ	今回は 5 ポイント、残りは 25 ポイント		
サービ			
サービ	<div>了解</div>		
開始時刻：	15：00	終了時刻：	16：15
<div>終了</div>			

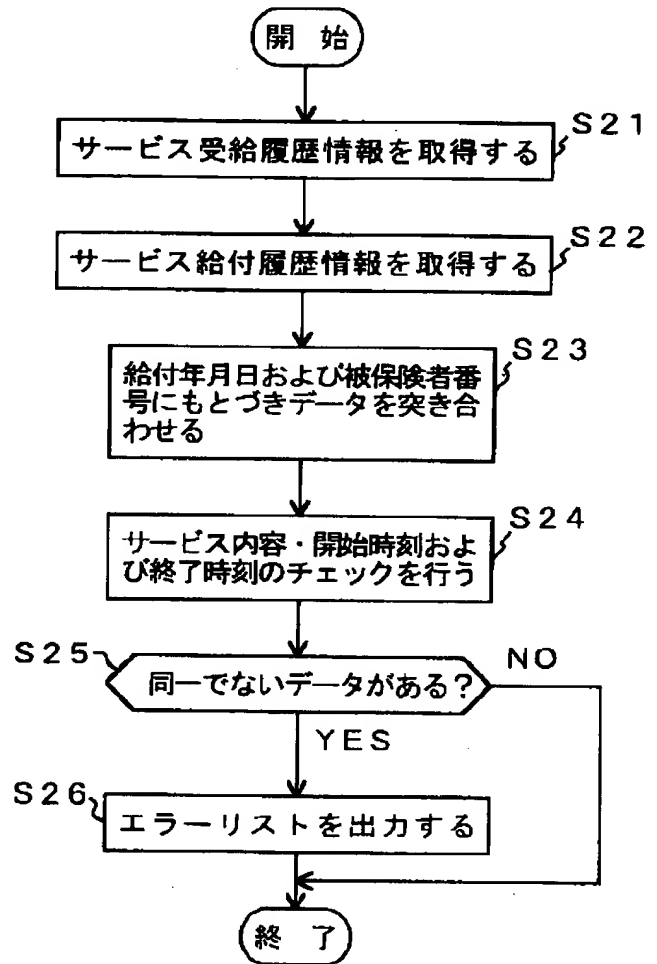
【図9】

サービス提供時の処理フローチャート



【図11】

請求審査処理の処理フローチャート



【図10】

サービス提供状況のチェック処理および
給付ポイントの移行処理のフローチャート

